

# 研究推進委員会通信

平成30年11月29日

11月26日（月曜日）に、本校で第3回授業研究会を実施しました。商業科が取り組む探求型学習プログラム「クエストエデュケーションプログラム」における「主体的・対話的で深い学び」から、生徒の読解力がどのように育成されているかを確認する場として実施しました。本研究会には、白鳥地区の小・中学校教員ならびに郡上市教育委員会から9名が参加してくださいました。また、生徒の発表に対する助言者として、メニコンから4名、郡上市民協働センターから3名、教育と探求社から1名が参加してくださいました。

今年度は連携型中高一貫教育で示されている3つの力「確かな学力」「共に生きる力」「自立する力」の形成に向けて「読解力の育成」に取り組んでいます。昨年度までは、その成果を確認する場がなかったという課題があり、今回はその課題を意識した授業としました。



高校の新学習指導要領では、各教科の力を横断的に活用する場である総合的な「学習」の時間が、総合的な「探究」に変更されます。そのこともふまえて各教科に「探究」という言葉が多く出ています。探究とは単なる調べ学習ではなく、生徒が答えのない課題を自分なりに捉え、その解決策のために様々な事柄を調べ、他者との対話を繰り返しながら思考を深め、最終的に自分なりの最適解を求めるといった過程です。その最適解は決して優れたものでなくても良く、その思考の過程が重要だと思われます。ただ、探究には各教科の基礎的な学力が必要になります。他者の見方・考え方を理解するためには当然のことかもしれません。今回の授業は総合的な探究の時間の一例として提案する意図もありました（例えば、ここまで時間を確保することは難しい場合でも、Good郡上プロジェクトに取り組むというのはいかがでしょうか）。



また、総合的な探究の時間の目標は学校の使命（ミッション）をふまえて作成されるものだといわれています。郡上北高等学校が地域からどう望まれているかを知り、そこから、総合的な探究の時間を検討し、各教科で目標を立てていくというカリキュラムマネジメントが必要となってきます。そのことをふまえて、教員が主体的に学び、他教科・異校種の教員と対話し、「どう教えるのか」を深く追及していく必要があります。多くの先生が研究会に参加し、授業改善を実施してくださっています。その取り組みや思いを全教員で共有し、話題としていくことでさらなる授業改善の支援ができたと思います。

次号では、第3回授業研究会における先生方の感想だけではなく、小・中学校の先生方のコメントや生徒の感想などを紹介したいと思います。